

## よそ 他所の麦見て我が麦直せ！ 集落営農法人が小麦収穫前に現地研修会を開催

今年 1 月に設立された湖東地域集落営農法人連絡協議会（事務局：湖東地域農業センター）では、麦・大豆の生産性向上を取り組みの一つに掲げています。協議会設立以前にも、集落営農法人を対象とした麦・大豆の研修会を実施していましたが、室内での座学によるものでした。

そこで、収穫間近となった 6 月 4 日に現地研修会を開催し、参加した 15 法人（24 名）の中から 7 法人の小麦（ふくさやか）ほ場を巡回しました。ほ場を目の前に見て、組織役員の説明を聞きながら生育状況や雑草の発生状況などを確認し、「最後の仕上げ」の違いを生産者に認識してもらいました。

巡回の中で、調査研究活動「小麦（ふくさやか）の施肥体系と遅れ穂との関係解明」の実証ほ場についても概要説明を行い、施肥体系の違いによる遅れ穂の発生状況も確認していただきました。

参加者らは、自分たちの小麦ほ場と比べて雑草が少なかったり、生育が良かったりすることに対し、行く先々で除草体系や施肥量などの情報交換を行っており、生産技術向上への意識誘導が図れました。

研修の最後には、当課から「排水対策の徹底」と「丁寧な播種による発芽率の向上」が最も需要であることの意識付けを行いました。

今後、小麦の収穫が始まり、各法人の収量・品質のデータが明らかになれば、当課の調査研究結果も含め、27 年産に向けた研修会を開催する予定です。



現地での情報交換



研修会の総括